

Q:治療の選択は病院や医者から提示してもらえるの？

⇒提示されます。「標準治療」を選ばれる方が多く、この治療は科学的根拠に基づいた観点で、現在利用できる最良の治療であることが示され、ある状態の一般的な患者さんに行われることが推奨されています。

Q:診断確定前の「がん相談支援センター」は利用できますか？

⇒利用できます。

Q:友人知人がん体験者が、何人かいますが、後遺症について語る人がいません。あまり話したくはないのかと。ご存知な範囲で、生涯続く良くある後遺症とは。

⇒さまざまな後遺症があります。いくつか例をあげます。

胃がん ⇒手術で胃の一部または全部を取ってしまった方は、一度にたくさんは食べられなくなり、貧血、下痢、逆流性食道炎、ダンピング症候群(食後に冷や汗や動悸など)などの後遺症と付き合っていくこととなります。体重も増えず体力がなくなったと感じている人もたくさんいます。

大腸がん⇒手術で摘出した場所によっては、ほとんど以前と変わらず特に後遺症は無いという方もいますが、直腸など肛門に近い場所になるほど、頻繁に便意を催し、我慢ができない(貯めておけない)のでどこへ行くにもトイレの有無が一番気がかりという方や、外出時にはおむつをつけているという方もいます。また、水分の吸収が悪くなってしまい、便が固まらずいつも水のような便になってしまうという方もいます。

消化器系のがんの手術は、食事や排せつに関する後遺症が悩ましいところかと思えます。

脳腫瘍などでは、身体の機能に問題が残る方もいますし、骨肉腫などでは四肢の切断などで義足や義手が必要になる方がいることはご存じかと思えます。

講演の中で少しお話ししましたが、妊孕性(にんようせい)といって子どもを授かる機能を失うこともあります。男性であれば精巣腫瘍であったり、女性であれば子宮や卵巣を摘出した場合はもちろんのこと、抗がん剤や放射線治療によって、生涯子供を持つことができなくなってしまう方が多くいます。

後遺症はあげればきりがありません。ご本人にしかわからない辛さや困難さがあります。また、後遺症は生涯付き合っていくざるを得ないものですし、外からはわからない後遺症もたくさんありますので、がんが治って元気になったからと周囲の方が、知らずに無理を強いてしまうこと(例えばもっと食べたら?とか、もっと飲んだら?とか…)がないと良いなと思います。